

政権が変わった影響で、平成25年度税制改正大綱が1月に出されました。通常12月に出されるものです。大綱には、法律の改正のモトになる考え方が書かれています。昨年度は低迷の民主党政権下で、大綱に盛り込まれていたことの多くが先送りになったり、一部が秋に改正になったり税制の実務現場は混乱しました。例年6～7月に出版される年度版の税務実務書籍が9～11月になったりしました。今年は、3月に改正法案が出され、混乱が生じないことを期待したいものです。大綱では、相続税の基礎控除の引き上げ等の実質増税が盛り込まれています。消費税は、逆進性（低所得者の負担が大きくなる）が指摘されるので、増税時には資産税（譲渡所得税や相続・贈与税）が増税になったり、調査が厳しくなったりするのが慣例となっています。

成功の要件24

（前回の続き）

17. 自分には厳しく、他人には寛容に

ほとんどの人が逆のことを行っています。人間の性^{さが}なのでしょう。だから、意識して行わなければ成らないものです。たまに自分に厳しいが、他人にもその厳しさを求める人がいます。尊敬はされるが嫌われることが多いようです。成果は上げられるので、経営者や管理職になることもあります。しかし、寛容さがなければ組織を大きくすることは難しいでしょう。普通、組織には、トップ以上の優れた人は存在しません。したがって、その物さしでは、社員には酷となります。基準を緩め、成長を期待しましょう。良くなったところ、努力しているところを意識して積極的に褒めましょう。

18. 情報、ノウハウを積極的に公開した方が、成功は速くなる

一昔前までは、情報やノウハウを持っていることに大きな価値がありました。非公開にしていたり、小出しに提供することで利益になることが普通でした。しかし、教育水準が上がり、インターネットが普及した現在では、その構図が崩れつつあります。世界の様々な研究者や専門家でも積極的に情報を発信している人には、多くの有用な情報（重複する無駄な努力が減らせるし、さらに発展させるためのヒントやアイデアも得られる）が集まると言われています。その結果、加速的に研究が進むそうです。ところで、日本の大手企業は、保守的で積極的でないそうです。だから、中小零細企業にもチャンスがあります。

19. 長所・利点は最大限に活用する

教育の現場では、欠点や短所を減らすような指導がなされることが多いようです。そうした努力には、精神的苦痛が伴い、また、時間も掛かり、さらには、せっかくの長所や利点を弱くする危険もあります。だから、欠点や短所の補正は、致命的なものに限り最小限でよいでしょう。同じ努力をするのなら、長所や利点を伸ばす方が賢明です。その方が成功・成長は早いです。また、長所や利点が増えると欠点や短所はあまり目立たなくなります。むしろ、愛されるべき個性となるでしょう。